

アンゲロニア アークエンジェル シリーズ

学名: *Angelonia angustifolia*

鉢上げから出荷まで

スケジュール

- アークエンジェルの生育には高いレベルの日射量が必要。早春の日射量が少ない場合は、晩春から夏に植えた方が良い。光が十分にあれば一年中開花可能。

培地

- 通気性が良い培地を使用。pHは5.8から6.2とする

温度

- 夜間温度: 17から20℃
- 昼間温度: 25から30℃
- 温度が低いと生育が遅れ、下葉が黄色くなる

光条件

- 光強度は60,000から1000,000ルクスを維持する
- 50,000ルクス以下の日射量では徒長・分枝が悪くなる

水やり

- 灌水と灌水の間に培地が軽く乾く程度に行う
- 葉焼けを防ぐには、培地の乾きすぎや繰り返し植物がしおれることのないようにする。

肥料

- 汎用タイプの肥料を175-225ppm(N)の濃度でコンスタントに与える。必要に応じて鉄分を補う
- 微量元素を補うようにする
- 過度のリン酸量やアンモニア態窒素を与えた場合には、不必要な栄養生長を促す要因となりうる。両方を施す場合には必要最小限に留める必要がある

- 定期的に真水をポットに与えて、漏れ出す水分で塩類量を調査する

ピンチ

- 11-13 cmポットで生産する場合は、ピンチ一回を勧める。定植後5-7日後に4-5節目をピンチする。13-20 cmポットの生産の場合は、花上りと分枝を良くするために2回目のピンチを勧める。2回目のピンチは最初にピンチから14-21日後に行う。

生長の制御

- 草丈は、中程度の肥料を維持、やや乾かし気味の灌水、強光下での栽培、スパーシングで草丈をコントロールすることができる
- 急に生育が進む環境下ではわい化剤の使用が必要
- サイコセル 700-1,000ppmとBナイン 1,500-2,000ppmのタンクミックスを1-2回散布する。最初の散布はピンチ後7-10日後に行う。同様に、Aレスト 6-12ppmとBナイン 1,000-1,500のタンクミックスも生長抑制には使用可能
- わい化剤の使用を避けるためには、栽培上の管理に気を配る必要がある。一般的に薄い濃度のわい化剤を使用すると良品の生産に繋がる
- 上記の矮化剤の使用に関する記載および情報は、あくまでもガイドラインであり、利用者は必ず使用方法を十分かつ正しく読み、使用者の自らの責任のもとで環境や条件を見ながら試行するべきである

一般的な問題

障害等	原因として考えられるもの
株の衰えや衰弱	長期間にわたる培地の過湿(ビシウム、リゾクトニア、ボトリチス)
過度の栄養生長	弱い日照条件下で過度な施肥 弱い日照条件下で過湿(多かん水、培地の過湿等)
弱い分枝力	肥料不足、特に窒素 / 弱い日照条件下での栽培
徒長	弱い日照条件下での栽培 / 株間が狭い / 定植の遅れ / 過剰なリン酸

アンゲロニア アークエンジェルの平均的な生産期間と定植本数

	10.5 から 12cm ポット 1 本植え	25 から 30cm ポット 3 から 5 本植え
鉢上げ～出荷	5-8 週	10-12 週

栽培資料ご利用にあたっての注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてお使いください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに沿った正しい使用方法とるようにしましょう